

令和五年度 岩手県立高等看護学院 入学試験

国語問題用紙 (その1)

日 次の問いに答えなさい。

問1 次の文章は新聞記事から採ったものです。傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。(各1点)

この問題は、著作権の関係により公開できません。

(二〇二二年十一月十八日岩手日報より)

問2 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(各1点)

- ① 和風の家具を**設**える      ② **屹**然たる姿勢で立ち向かう      ③ **末期**の水をとる      ④ 日本文化の**黎明**期      ⑤ 自分の仕事に**矜**持をもつ

問3 次の傍線部の語句の**反対語**を漢字で書きなさい。(各1点)

- ① **遺失**物      ② **疎遠**な関係      ③ **怠惰**な性格      ④ **温暖**前線

問4 次の文の傍線部は日常の会話として不適切です。会話の相手や場面、意味を考えて、正しい使い方に直しなさい。(各2点)

- ① 「このような重要な仕事をいただき光栄です。私は**役不足**ですが精いっぱい務めます。」  
② (目上の人に対して)「先生、お仕事**苦勞**様です。」  
③ 「仕事の依頼をしたが、取り付く暇もなく断られた。」

問5 次の文章は岩手県出身の歌人について説明したものです。後の問いに答えなさい。

① この歌人は、一八八六年、岩手郡日戸村(現在の盛岡市)で生まれた。

中学校に進学すると短歌や文学の世界に没頭していった。上京し、自身が傾倒していた与謝野鉄幹、晶子夫妻と交流、才能を高く評価されたが、心身共に不調で帰郷。やがて岩手から北海道に渡り新聞社の記者や教員として働いた。一九〇八年再び上京。五五一首の歌を収めた**初めての歌集**を発表した。その後、天才歌人として活躍を期待されたが、一九一二年に二十六歳の短い生涯を終えた。

③ **【短歌の特徴】** 従来の短歌とは異なるスタイルで日常生活や望郷の念を主題とした。

**【代表的短歌】**

この問題は、著作権の関係により公開できません。

国語問題用紙 (その2)

問1 傍線①この歌人の名前を漢字で書きなさい。(3点)

問2 傍線②初めての歌集の名称を書きなさい。(3点)

問3 傍線③従来の短歌とは異なるスタイルに合致するものを、次のうちから二つ選び、記号で書きなさい。(各1点)

ア 句切れなし    イ 口語体    ウ 反復法    エ 三行分ち書き    オ 仮名交じり    カ 自由律    キ 散文調    ク 体言止め

問4 ④に入る語句を、次のうちから一つ選び、記号で書きなさい。(1点)    ア 帰れ    イ 泣け    ウ 歩め    エ 咲け

問5 ⑤に入る語句を、次のうちから一つ選び、記号で書きなさい。(1点)    ア 夢    イ 山    ウ 空    エ 風

問6 次の文章をよく読んで後の問いに答えなさい。文中の①～⑨は小段落を表しています。なお、この文章は二〇一八年に書かれたものです。



国語問題用紙 (その4)

四 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。

この問題は、著作権の関係により公開できません。

問1 傍線①夢にも思わなかったを、同じ意味の、次の文で言い換えるとき、空欄に入る二文字の助詞を書きなさい。(3点)

「夢想  しなかった。」

問2 傍線②こんなこととは、どのようなことを指して言っていますか。次の空欄に合う語句を、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。(各3点)

「自分が  a (二文字)  したことの  b (三文字)  。」

問3 傍線③私の名は呼ばないとありますが、その理由として最も適当なものを次のうちから一つ選び、記号で書きなさい。(4点)

- ア これまで長い間夫のために働き、今後も夫の面倒を見ようと思っていたのに逆の立場となってしまう、申し訳なく思うから。
- イ 自分の病状が悪化していくことを理解し、夫の中で自分に対する価値が薄れていってしまうように感じて、寂しく思うから。
- ウ これまで長い間ともに生きて寄り添ってくれている夫が、日に日に理解できなくなっている現実を、悔しく思っているから。
- エ 自分の病状がどんなに悪化しても、夫にこれ以上迷惑をかけず、自分のことは自分で何とかしようとする気持ちがあるから。

問4  ④  にはどんな言葉が入りますか。会話の場面を考え、次のうちから最も適当なものを一つ選び、記号で書きなさい。(4点)

- ア 少し楽になりますね
- イ ますます大変ですね
- ウ 気をつけてくださいね
- エ よろしく頼みますね

問5 傍線⑤ 焼き付いたとは、具体的にどんなことですか。次のうちから最も適当なものを一つ選び、記号で書きなさい。(4点)

- ア 妻がホームに入所することに反対していたが、正式な病名を知らされて避けられないものだとなつた。
- イ 先生が簡単に書類を作成してくれたので、妻がホームに入所することは何でもないことだと気が楽になった。
- ウ 妻の病状については理解していたものの、あらためて公的な書類で病名を突きつけられて衝撃が走った。
- エ 私も以前から妻と同じような症状があったので、自分もいずれこの病名がつく時が来るものと覚悟した。

問6 傍線⑥ さらにもう一回拭いた 私の心情を説明する次の文の空欄に合う語句を、それぞれ漢字二文字で書きなさい。(各3点)

「妻の  a  という言葉に、これまで妻との出会い、妻がつくしてくれたことなどをあらためて  b  し、妻へのより深い  c  が込み上げてきた。」

問7 この文章で描かれている夫婦のように、高齢者が高齢者の世話をしている状態は、現代の高齢化社会における大きな問題となっています。

このような状態のことを何と言いますか。漢字四文字で書きなさい。(5点)